備中松山城

Bitchu Matsuyama Castle

◆国指定重要文化財◆

岡山県高梁市

Bitchu Matsuyama Castle information

◆◆ 交　通

JR伯備線／備中高梁駅より車で10分（下車後徒歩20分）
岡山自動車道／賀陽ICより車で20分（下車後徒歩20分）

◆◆ 入 城 料（1人1回につき）

〈個人〉
小中学生／150円　・　大人（高校生を含む）／300円
〈団体〉
責任者が引率する30人以上100人未満／所定料金の1割引
責任者が引率する100人以上　　／所定料金の2割引

◆◆ 四館探訪

4施設の入館料は通常1,300円ですが、900円で観光できるおトクな共通入館券を販売しています。

備中松山城／300円　　武家屋敷2館／400円
頼久寺庭園／300円　　郷土資料館／300円
計1,300円→**900円**

◆◆ 公開時間　4月～9月／9:00～17:30・10月～3月／9:00～16:30

◆◆ 休 城 日　12月29日～1月3日

◆◆ お問い合せは

(一社)高梁市観光協会
tel.0866-21-0461
http://www.takahasikanko.or.jp/

備中松山城管理事務所
tel.0866-22-1487

高梁市教育委員会
tel.0866-21-1516

高梁市産業観光課
tel.0866-21-0229
http://www.city.takahashi.okayama.jp/

◆ 歴代城主一覧表

鎌倉時代	一二四〇～一三三〇	秋庭氏
南北朝時代	一三三一～一三五五	高橋氏
室町時代	一三五五～一三六二	高氏
戦国時代	一三六二～一五〇九	秋庭氏
	一五〇九～一五三三	上野氏
	一五三三～一五七一	庄氏
	一五七一～一五七五	三村氏
安土・桃山時代	一五七五～一六〇〇	天野・桂氏（城代）
江戸時代	一六〇〇～一六一七	小堀氏（国奉行）
	一六一七～一六四一	池田氏
	一六四一～一六四二	水野氏（在番）
	一六四二～一六九三	水谷氏
	一六九四～一六九五	浅野氏（在番）
	一六九五～一七一一	安藤氏
	一七一一～一七四四	石川氏
	一七四四～一八六八	板倉氏
明治時代	一八六八～一八六九	池田氏
	一八六九～一八七一	板倉氏
	一八七三	廃城

◆本丸南御門（復元）

木造本瓦葺き、棟門、開き戸。復元された五の平櫓と六の平櫓の間にあり、本丸の正面玄関にあたる。大手門についで格式が高かったといわれる。

天空の城塞「備中松山城」―― 山の頂より今も見つめる悠久の刻。

市街地の北端にそびえ、「おしろやま」の愛称で市民に親しまれている「臥牛山」(標高約四八〇m)。北から、「大松山」・「天神の丸」・「小松山」・「前山」の四つの峰からなり、西から見た山容が、草の上に伏した老牛の姿に似ているとして、「老牛伏草山」とか「臥牛山」などと呼ばれ、備中松山城はその頂を中心に全域に及んでいます。

現在、一般に「備中松山城」と呼ばれるのは、この内の小松山の山頂(標高約四三〇m)を中心に築かれた近世城郭を指し、天守の現存する山城としては随一の高さを誇ります。城内には天守、二重櫓、土塀の一部が現存し、昭和二五年に重要文化財の指定を受けています。

また平成九年には、これら重要文化財を中心に、本丸の正面玄関ともいえる本丸南御門をはじめ、東御門、腕木御門、路地門、五の平櫓、六の平櫓、土塀などが史実にもとづいて復元されました。さらに傷みが進んだ天守も平成十五年には保存修理が行われて現在に至っています。

備中松山城の歴史

この城の歴史は古く、鎌倉時代の延応二年(一二四〇)に有漢郷(現在の高梁市有漢町)の地頭に任ぜられた秋庭三郎重信により臥牛山のうちの大松山に砦が築かれたことに始まります。

その後、小松山に移り、城の縄張りは時代とともに変化しますが、なかでも天正二年(一五七四)に起こった「備中兵乱」時は、「砦二十一丸」と呼ばれた出丸が築かれていたことが記録として残っており、臥牛山全域が一大要塞となっていたことが、うかがえます。

当時の城主であった三村氏が滅んだ後も、毛利氏の東方進出の拠点として、またさらに毛利氏が防長二国に退いてからも、備中国奉行として赴任していた小堀正次・政一(遠州)父子により修改築がなされるなど、備中の要衝としての役割を担っていたようです。以降、池田氏、水谷氏、安藤氏、石川氏、板倉氏と城主が変わり明治維新を迎えますが、現存する天守などは天和三年(一六八三)に水谷勝宗により修築されたものと伝えられています。

◆二重櫓(国指定重要文化財)

天守同様、天然の巨石を櫓台とした二層二階建の構造です。

南北2つの出入口は、北は後曲輪に、南は天守裏に通じています。

◆三の平櫓東土塀(国指定重要文化財)

四角い矢狭間と丸い筒狭間を備えた三の平櫓東土塀。

厩曲輪の土塀の一部とともに永年の風雪に耐えて残った現存の土塀。

◆本丸東御門(復元)

木造本瓦葺き、棟門、引戸。天守の東脇にあり、本丸の勝手口にあたる。

本丸内で唯一の引戸で、常時、本丸内に人がいなかったことがうかがえる。

◆腕木御門(復元)

木造本瓦葺き、棟門、開き戸。二重櫓の正面脇にあり、本丸の裏門にあたる。降りていけば、搦手門の前にでる。

◆天守(国指定重要文化財)

木造本瓦葺き二層二階の建物で、内部一階には囲炉裏と装束の間が、二階には城の守護神を祀った御社壇があります。古い木組みの構造の中に、美しい手斧と槍鉋の跡が見られます。

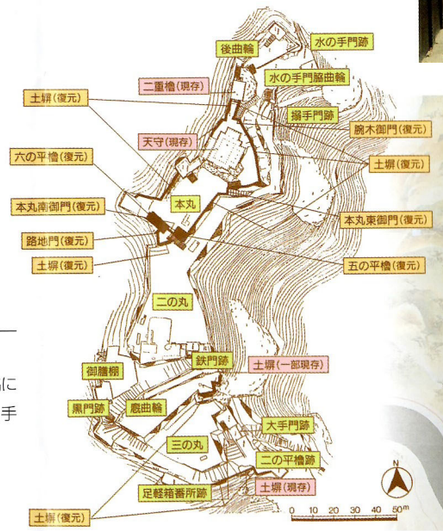
◆御根小屋跡(県指定史跡)

山裾の御根小屋は松山城主の日常の居館として、また領内を治める政庁として設置され、実質上「お城」としての機能を果たしていました。

(復元模型)

◆路地門(復元)

木造埋門、片引戸。六の平櫓の脇から城外へ抜ける虎口で、土塀に塗り込められた小規模な門。



備中国松山城絵図 水谷伊勢守
正保年間(内閣文庫所蔵)

現存天守の残る
日本一高い山城

びっちゅうまつやまじょう

備中松山城

登城絵図

備中松山城天守

最も高い所に天守の現存する山城（標高４３０ｍ）。二層二階の典型的な山城だが、三層に見える様にデザインされている。篭城戦を想定し、囲炉裏や装束の間が設けられており、二階には御社壇（神棚）があるのが特徴。天守は１６８３年、水谷勝宗によって大修復されたもの。（国指定重要文化財）

二の丸

二の丸はもっとも広くお弁当を食べたりするのに最適。城下を見下ろしたり、記念撮影をしたりもできる。

御膳棚（ごぜんだな）

かつては食事をつくる場所だったが、現在はトイレになっている。

厩曲（うまやぐるわ）

荷馬を繋いでいた厩曲。現在で言えば駐車場にあたる場所。

土塀

土塀の一部が現存のもので、残り半分は復元されたもの。壁の段差で、現存部分と復元部分を区切っている。（国指定重要文化財）

大石内蔵助腰掛石

水谷家は三代で世継ぎが無く断絶。この際、城の受取に来たのが播州赤穂の大石内蔵助だった。備中松山藩家老鶴見内蔵助との話し合いにより、無血開城することに成功。二人内蔵助会議として語り継がれる。

二重櫓

天守の北側、岩盤の上に造られた二重櫓。天然の岩盤の上に石垣を築き建てられており、山城の特徴がよく表れている。（国指定重要文化財）

大手門跡

大手門から先には多くの石垣が残っているが、一際目を引くのが大手門の右手にそびえる石垣群だ。天然の岩盤の上に石垣を築き、更に土塀を建てる。山城の魅力である天然と人工のコラボレーションがよく表れている。

中太鼓丸櫓跡

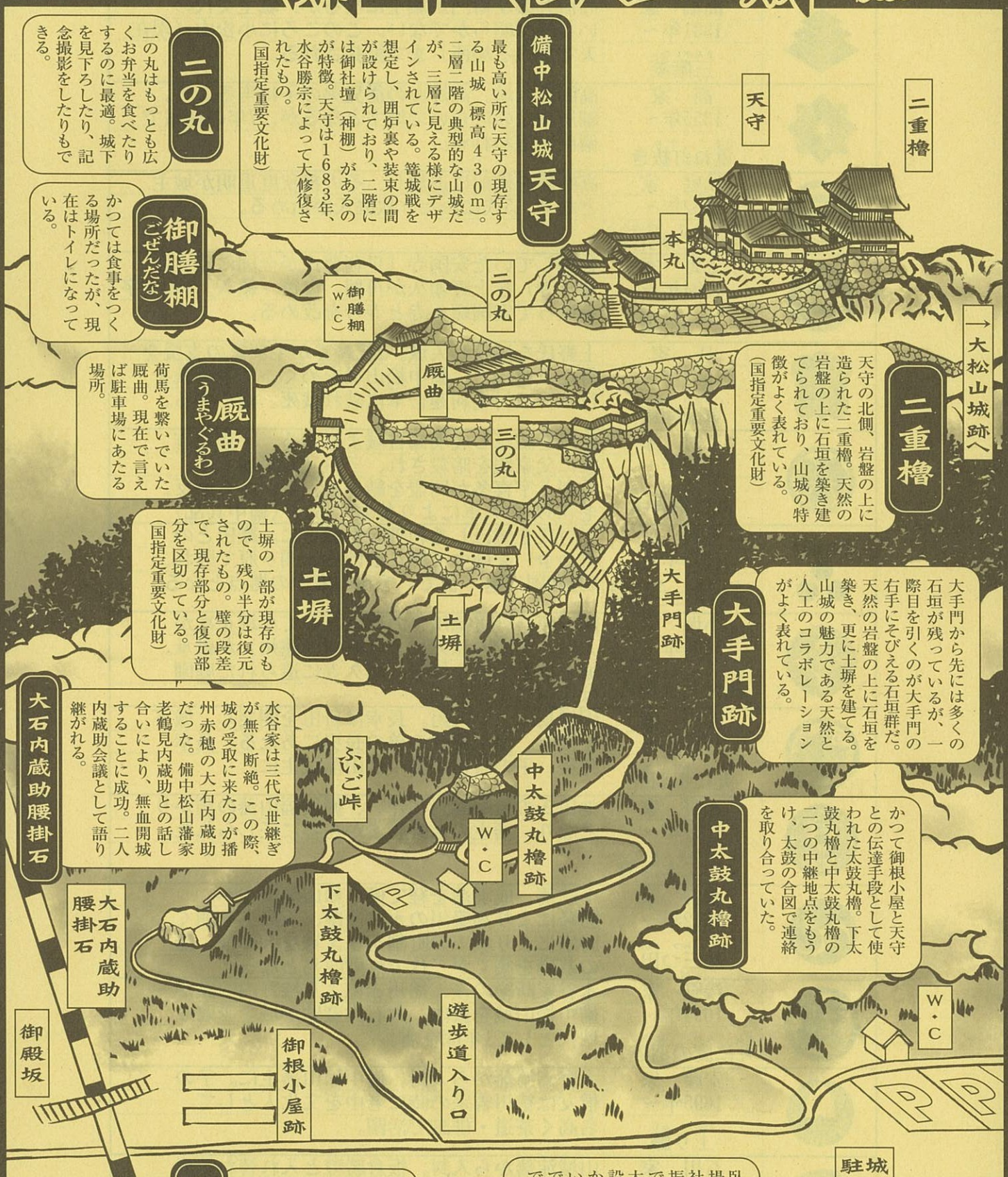
かつて御根小屋と天守との伝達手段として使われた太鼓丸櫓。下太鼓丸櫓と中太鼓丸櫓の二つの中継地点をもうけ、太鼓の合図で連絡を取り合っていた。

御根小屋跡

城主が日常住んでいた御殿に当る建物で政庁も兼ねている。天守は象徴的な存在で、政治の中心は御根小屋で行われた。現在の高梁高等学校。

ふいご峠

臥牛山８合目の駐車場。備中松山城の御社壇に納められた三振の宝剣をこの場所で作らせ、その為に大きな「ふいご」が設置されていたことから、この名前がついた。ここから徒歩で７００ｍ約２０分で天守に到着。



城見橋公園駐車場

一般社団法人 高梁市観光協会